



▲鮮やかな色彩が特徴の桃山建築による社殿



▲五代藩主吉村公の揮毫による「八幡宮」の扁額。二羽の鳩が「八」の文字を作っています



▶ガイドの阿部さん(左)と佐藤さん

伊達政宗公
生誕450年
シリーズ
第六回

仙台に華開く伊達な文化②

大崎八幡宮

国宝大崎八幡宮ガイドボランティア会



伊達政宗公が410年前に造営した大崎八幡宮。ガイドボランティアの方に案内していただき、伊達文化の粋に触れてきました。

大崎八幡宮創建の由来

大崎八幡宮に祀られている八幡神は、広く武家の信仰を集めていた武運・戦の神です。ご神体は室町時代には奥州探題大崎氏の領内（現在の大崎市）にありましたが、仙台開府後の慶長12年（1607年）、政宗公により仙台城の乾（北西）の方角にあたる現在の地に祀られました。政宗公が仙台城築城とほぼ同時期に大崎八幡宮を創建したのは、戦の神を祀ることで領地を守ろうとしたからとも言われています。新領地の平和を願う領主の思いが感じられます。

豪壮・華麗な桃山建築

政宗公は、仙台城築城前の約10年間は京・大坂で暮らすことが多く、桃山文化を身近で感じていました。大崎八幡宮は、当時豊臣家に仕えていた工匠を招き、桃山建築により造営されています。社殿には鮮やかな彩色や彫刻が施されるなど、豪壮で華麗な桃山建築の特色を見ることができます。政

宗公が好んだ斬新さや華やかさを表す、「伊達文化」を象徴する建造物といえるでしょう。

創建当時のままの美しさ

大崎八幡宮の社殿は、日本最古の石の間（権現）造りの建造物として、国宝にも指定されています。平成12年から16年にかけては、創建以来最大規模となる社殿解体修理が行われました。

この工事において、屋根を除く外から見える部分で、新しい材料が使われたのは全体の1パーセント以下。ほとんどの部分で、創建当時のままの姿を見られます。また、外部の彩色も当時と同じ顔料により再現されており、410年前の創建当時の華やかさ思いをはせることができます。



▲極彩色の想像上の霊獣・麒麟（上）や象の彫刻

◆ガイドの申し込みを受け付けています

社殿および境内を案内します。
問 国宝大崎八幡宮ガイドボランティア会
☎ FAX 221・9565